

2025 年 3 月 1 日(土)

天気によみとく名画

今日から 3 月。今週後半は晩春を思わせるような温かな陽気になりましたが、週明けからは寒冷前線の通過により大きく天候は崩れるとの予報が出ています。4 日(火)からは学年末考査が始まります。影響がないことを願うばかりです。

さて、天気予報のもとになる天気図が日本で最初に作成されたのは、1883(明治 16)年 3 月 1 日でした。それから 140 余年、今では毎日天気図が作られ、数時間ごとに予報が発せられています。私の生まれた街にも地方気象台があり、友人と一緒にたまに見学に出かけたものです。当時は、まだ天気図は手書きで中学校「理科(第二分野)」では、天気図の書き方なども教えていました。私も兄を見習って、小学生時分から NHK ラジオ第二放送から流れてくる「気象情報」を聞きながら「天気図」を作成したものです。「ウルップ(得撫)島では、北北東の風、風力 3、雨、25 ヘクトパスカル、- 3 度…」というように、日本列島周辺の都市からのデータもたくさん出てくるので記入しながらも地名と場所を覚えてしまいました。また、なめらかな等圧線や台風の描き方などは、気象台にある日本気象協会の方からも教えてもらいました。

ところで、もう一つ話題を。最近、書店でたまたま長谷部 愛(2024)『天気によみとく名画 フェルメールのち浮世絵、ときどきマンガ』中公新書ラクレ、238 頁を見つけました。2 月に初版で 8 月再版ですから、よく読まれている本と言えるでしょう。著者は気象予報士でラジオのレポーターとして活躍されるながら、東京造形大学で特任教授をなさっている方だそうです。皆さんが「美術」や「歴史」の文化史の授業で登場する絵画をたくさん取り上げています。17 世紀のオランダ・フランドル絵画は、小氷河期の影響を受けて暗くどんよりとした雲が空の半分以上を覆ったものばかりですが、18 世紀に入ると一転して気候は温暖化し、マネやモネに代表されるフランス印象派の明るい絵画が主流になって行ったというように…。こうした絵画の見方もあるのかと、その冴えた鑑賞眼に驚きました。

皆さんにも既製のものを新しい視点で分析する技“ uniqueness ”を身につけてほしいと願います。

石飛 一吉

参考文献

西崎 紀衣(2012)17 世紀のオランダ風景画にみる気候変動の影響「豊田市美術館紀要」No.5, pp.40-45.

